



気になるあいつ
わかぎゑふ

双葉社

アクシデント

うちの事務所に波乱が起きた。劇団をやっているので波乱はよくあるのだが、今回は少々大きい。というのもマネージャーがお母さんの看病のために東京に着いて行ったまま帰って来られなくなったのだ。お母さんの病気が悪化したのではなく、なんと彼女が病気になったのである。

まず「3段の階段を上がり下りするのに15分もかかるような腰痛に悩まされています」なんてメールがきた。大丈夫かいな！ 接骨院とか行っただ方がええんとちゃうの？ と言っていたら、あれよあれよと言う間に連絡がつかなくなり、「私自身が検査をしなきゃいけない羽目になって

ます」という連絡がきて、そのまま腎臓が悪いことが発覚。オカンの看病どころではなくなつた。

事態の大きさと急展開な状況で、私は休職をした方がいいと勧めたのだが、それも振り切つてあつという間に辞めることになつた。

……問題は今、事務所は最高に忙しい時期だつたという現状である。なんせその時点で芝居の本番の6週間前だつた。これから稽古もあるし、なんととっても宣伝もしないといけないという大切な時期だつたのだ。

「嘘…マネージャーおれへんかつたら誰がやるの？」

と劇団の幹部で話し合ったが、すでに皆の視線が私の方を向いていた。マジで？ だって、これから演出とかもやらなあかんし、本番には役者で出てるし…ええ？ マジで？ その上に新聞社の人とかに電話して、来年の芝居の企画書書いて、その連絡して、劇場に電話入れるの？ ほんで当日は受付に出てお客さんに挨拶するのん？

マジ、ほんまにマジで???

…と、抵抗したが：「ごめん、他に居れへん。座長頑張つて！」と皆がまた視線を向けた。おかげで全てが降り注いできている。事務所に言つて事務処理をしつつ、営業の真似事をし、今年から来年の芝居のブックイングやら、劇場決めやら、企画書書きやら…夜は夜で芝居の稽古をし、家に戻つて今度は自分のエッセイなどを書く。お金になるのはこの深夜のエッセイの部分だけだ。あとはまったくの無収入である。

出来るのか？ と思つていたが、恐ろしい事に人間なんでもやつたら出来るものである。今は芝居の4週間前に突入してるが、この2週間でだいたいの遅れを取り戻しつつある。

だから、今の私の一番気になるのはイベント会社の経営理論とか、成功者の言葉とか、ビジネススーツとか、劇場で配られてるパンフとか…お弁当のおかずの中身などである。今回の写真は先日姫路で食べたお弁当の卵焼きの断面図。

「ふーん…手のこん弁当やな。なんぼくらい使ってるんやろう?」

と思わず写メールをとってしまった。

お弁当の値段も劇団経営者にとっては頭の痛い問題だからだ。やれやれ…このまま乗り切れるだろうか? 今日も不安だ…。

【著者略歴】

わかぎさるふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より作家・中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇店」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『イブの抜け穴』『大阪弁の詰め合わせ』など多数。
